

事務事業事後評価シート[令和1年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	商工部商業観光課	■担当係	観光国際係
■評価事業名称	北上展勝地さくらまつり事業費補助金(事務局事務含む)		
■事業開始年度			
■評価事業コード	060100 - 039	■会計区分	一般会計
■総合計画での位置づけ	■政策	03 ひと・技・資源を組合せ活気うまれるまちづくり	
	■基本施策	02 活気ある商工業と観光の振興	
	■施策	04 地域資源を活かした観光の振興	
■事業の類型	06 負担金・補助金(任意・ソフト事業)	■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの		
■法令等の名称			
■関連計画の名称			
■事業の目的と概要	みちのく三大さくら名所である北上展勝地さくらまつりを開催し、大勢の観光誘客を図ることによる地域の賑わいを創出する。展勝地さくらまつり開催に向けての、担当者会議、受入れ団体会議等の打合せのほか、交通規制、道路使用等の許可申請など開催のための準備事務等及びさくらまつり期間中の臨時案内所運営、主催事業実施、受入れ体制の整備など。加えて補助金支払い事務。		

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	令和1年度事業計画	令和1年度事業量実績
01	北上展勝地さくらまつり事業費補助金(事務局事務含む)	北上観光コンベンション協会	北上展勝地さくらまつり運営事業に対する補助鬼剣舞公演、ポスター・プログラムの作成、会場の設営、関係団体等との打合せ	補助件数1件開催期間:4/15~5/6観光客入込:440,000人/各種イベント実施/ポスター・プログラムの作製、会場の設営、珊瑚橋交通規制の実施(4月の第3土日)

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	備考
直接事業費	3,027	5,968	14,023	10,031	
人件費	3,604	3,078	13,525	7,546	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	6,631	9,046	27,548	17,577	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	28年度	29年度	30年度	1年度	指標の説明
01	入込1人当たりコスト	16円	19円	64円	39円	フルコスト÷北上展勝地さくらまつり来場者数
02	北上展勝地さくらまつり来場者数	416,000人	477,000人	433,000	440,000	駐車場で車の台数、バスターミナル台数等を基に算出
03	まつり1日の費用コスト	229千円	323千円	1,060千円	798千円	フルコスト÷開催日数

事務事業事後評価シート[令和1年度事業]

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

みちのく三大桜名所として認知度も高く、観光ルートとしても定着し、入込数が増加した。渋滞対策を実施したことにより、渋滞緩和につながった。

問題点・課題等

桜の開花時期が早まっており、GWIには落花。桜の開花前・落花時期に対応していないため、まつりの時期を見直すか、その間の顧客満足を高める必要がある。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

交通渋滞対策及びイベント開催期間の検討。実行委員会に移行したことにより、民間活力の活用を検討。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了